

腎尿酸代謝に及ぼす臨床的要因に関する検討のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年3月31日～2027年12月31日

〔研究課題〕 腎尿酸代謝に及ぼす臨床的要因に関する検討

〔研究目的〕 高尿酸血症はわが国において約1000万人超が罹患しているとされる生活習慣病のひとつです。高尿酸血症が持続すると痛風関節炎が引き起こされますが、その一方で高尿酸血症は高血圧・糖尿病・メタボリックシンドロームといった、他の生活習慣病を高頻度に合併することが知られています。さらに高尿酸血症は狭心症・心筋梗塞といった心血管疾患の発症、ならびに慢性腎臓病の進行に関連する危険因子として報告されており、高尿酸血症を適切に診断し、治療を行うことでこれらの疾患の予後を改善できる可能性があると考えています。

高尿酸血症の病態として産生過剰型、排泄遅延型、それらの合併が考えられますが、わが国では腎臓での尿酸排泄遅延の病態が高い頻度でみられています。腎臓での尿酸の再吸収と分泌は近位尿細管に発現する尿酸輸送体が主な役割を担いますが、これらの輸送体の活性は生活習慣病によって修飾されており、これがメタボリックシンドロームや糖代謝異常と高尿酸血症を結びつける原因である可能性が考えられます。しかしながら、腎臓での尿酸排泄が肥満や糖代謝異常によってどう制御されるかについては十分明らかになっていません。そこで糖代謝異常やインスリン分泌異常が尿中尿酸排泄に与える効果、影響について後ろ向きに検討し、今後の診療上有用なデータを抽出・解析することを目的として、本研究を行います。

〔研究意義〕 本研究の解析により診療の質の改善、ひいては医療経済上のベネフィットをもたらす可能性があります。

〔対象・研究方法〕 調査対象となるのは2018年1月から2021年12月までに当大学附属病院に受診された患者様で、調査項目は、年齢、性別、臨床症状、検査データ、治療方法、経過などです。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕 研究で知り得た個人情報については、内科医局内で管理し、外部に漏洩しないように細心の注意を払って厳重に管理します。あなたの検体や臨床検査データを匿名化し、あなたの名前は付けずに番号だけを付けて扱います。研究終了後は、情報が外部に漏洩しない方法で破棄します。

〔その他〕 今回の研究で得られた全体的な結果については、医学的な専門学会や専門雑誌などで報告されることがあります。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：柴田 茂（医学部内科学講座・教授）

住所： TEL：03-3964-1211(代表) [内線 40355]